

# 思考力・判断力・表現力を育てるN I E 教育

洲本市立安乎中学校 校 長 齋藤 実

主幹教諭 高橋 佳治

## 1. はじめに

本年度から、N I E 実践指定校として「思考力・判断力・表現力を育てるN I E 教育」をテーマとして取り組んでいる。総合的な学習の時間を中心に、朝の学習の時間や技術科、美術科、体育科で教科としても実施してきた。新聞力をどのように生かすことができるか。多くの方々のご指導を頂きながら行った1年間の活動を振り返りたい。

## 2. 新聞について

本校の生徒は、約9割が自宅で新聞を購入しているが、数%の生徒しか新聞を読んでいない。教職員(12人)では、全教職員が購入しており、内訳は神戸新聞6人、朝日新聞4人、読売新聞1人、産経新聞1人であった。生徒、教職員とも地域に密着した新聞を購入している傾向にある。

思考力・判断力・表現力を育てるN I E 実践に当たり、身近な新聞記事を通して、取り組んでいくことにする。新聞を学校で活用する際、一部の週刊誌の広告が問題だと感じる。新聞社によって広告の大きさが違う。大きな広告を出している新聞は、どうしてもその方へ生徒の目が行ってしまう傾向がある。

## 3. 朝学活・総合的な学習での取り組み

各新聞を2カ月ごとに購読し、ホールで自由に読めるような環境を作った。昼休みや休み時間を利用し、新聞を読む生徒が、

N I E に取り組むに従って増えていった。



朝の学習では、担当者が選んだ記事を印刷し、生徒に自分の考えを書かせた。生徒の書いた文章は記事とともに掲示した。取材した記者の思いを読み取り、自分の考えをまとめさせた。総合的な学習の時間では、生徒が関心を持った記事をノートに貼り、それについて自分の考えや家族の意見をまとめさせた。社会で起きているさまざまな問題を主体的に考えていこうとする態度(アクティブラーニング)が身に付いてきた。

## 4. 各教科での取り組み

・技術科 「生物育成」分野において、「植物工場などの実例」をはじめ、「最新の技術」や「電気自動車やコンピューター」などについて、新聞記事の活用による授業を行った。

・美術科 美術館での展覧会について、新聞記事を使い、作品紹介や作品の見方について学習を深めた。

・体育科 新聞に発表された体力測定や陸

上競技などの記録と生徒の記録を比較する授業を行った。また、記録を出した選手のコメントを参考にし、日々の練習を反省させた。

## 5. N I E 研究授業

平成26年4月28日付朝日新聞「Japanese Only」問題を取り上げ、国籍や民族の「違い」から多くの社会問題が発生していることについて授業を行った。淡路市企画政策部国際交流員の李瀕氏と協力し、授業を進めた。多文化共生社会の実現のために、生徒自身の周りにある問題を見逃さず、共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成しようとした。見て見ぬふりをすることは、「Japanese Only」問題だけでなく、学校における「いじめ」の解決を遅らせるということを考えさせた。朝日新聞『「みる・きく・はなす」はいま』についても触れ、授業の最後には朝日新聞社阪神支局の事件についても触れた。



授業後の研究協議では、N I E 教育の改善・充実、N I E 教育の今日的な課題についての協議を行った。研究授業については淡路3市の小・中学校に案内したが、参加者は本校教職員を含め、23人であった。各学校では、N I E 担当の教師が明確ではなく、研究会を開くに当たり、参加者の確保

に問題があるように感じた。教育課程の中にN I E が位置付けられていない学校があり、生きる力を育む教育の推進にN I E が有効であるにもかかわらず、担当教員がいないのは残念である。

## 6. 記者派遣事業

10月10日、朝日新聞洲本支局の吉田博行記者を招き、記者派遣事業を行った。吉田記者は、デジカメやパソコンなど取材に使う機材や取材の方法について講義をした。淡路島での取材にまつわるエピソードについても紹介し、生徒たちは楽しいことやつらいことについて話を聞いた。また、災害時に使う衛星携帯電話の利用法も学び、既存の通信回線が不通の場合でも通話できることを知り、実際に生徒が通話した。

記者派遣事業により、生徒が壁新聞を制作したり校外学習のまとめを行ったりする際に参考となる話が多くあった。

## 7. 朝日新聞社見学

11月20日、朝日新聞社大阪本社の見学を行った。編集局を中心に説明を聞き、記者たちが出題したクイズを解いたり、生徒の見学記念号外作りに立ち会ったりした。また、新聞制作の今昔や印刷の仕組みについて説明を聞いたり、新聞の歴史についても学習した。

朝日放送のスタジオが新聞社内にあることを知り、興味のある生徒も多数おり、新聞やTV報道に関心を持つようになってきた。まとめを行い、感想文を朝日新聞に郵送した。活字のキーホルダーや新聞用紙のメモ帳などを頂き、新聞に親しむ生徒も多くなってきた。



## 8. 新聞発表

生徒が新聞を読みたいという気持ちにさせるには、生徒本人の記事が載ることが大切だと考えた。学校行事の際、積極的に記者発表を行い、安乎中学校の活動を校外に発信して、関心を持たせた。発表記事は以下の通りである。

- 4.29 神戸新聞  
絵本の読み聞かせ（保育所）
- 5.30 神戸新聞  
植物、生物調査
- 7.1 神戸新聞、読売新聞  
手話教室
- 9.27 朝日新聞、読売新聞  
N I E 研究授業
- 10.11 朝日新聞  
記者派遣授業
- 10.23 神戸新聞

卓球全国大会参加

- 11.17 読売新聞  
地域防災訓練
- 11.28 神戸新聞  
新聞コンクール学校賞
- 12.23 読売新聞、毎日新聞  
いっしょに読もう！新聞コンクール  
生徒奨励賞
- 1.17 読売新聞、産経新聞  
震災追悼集会
- 2.10 神戸新聞 2.11 読売新聞  
南三陸町へ励ましの作品を送る

## 9. N I E 全国大会

7月31日、8月1日の両日、徳島市で開催されたN I E 全国大会に参加した。「よき紙民になる～子どもに意欲を持たせるN I E 活動～」をスローガンに、英オックスフォード大学教授荻谷剛氏の講演があった。教育と新聞は密接な関係にあり、賢い市民の育成には教育が重要で、とりわけ新聞の活用の有効性について講演いただいた。社会を切り取る窓として、新聞を子どもたちにどのように出会わせるかを考えなければならない。1度きりの出会いではなく、繰り返し何度も出会うことが大切である。そのために、学校だけではなく、家庭や地域と連携し広がりを持って、新聞に出会わなければならない。新聞を読み解く力は、学校の取り組みを通して育成しなければならない。あらためてN I E の重要性を認識した。

## 10. いっしょに読もう！新聞コンクール

朝の学習や総合的な学習の時間を活用し、新聞を読み、自分の考えをまとめる取り組みを行ってきた。その一つとして、日本新

聞協会が主催する「いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募した結果、学校奨励賞、生徒は奨励賞を頂いた。受賞により、生徒だけではなく学校も意欲的に取り組めるようになってきた。このことは、洲本市の広報誌でも取り上げられた。

この「いっしょに読もう！新聞コンクール」は、兵庫県の応募数が全国3位と知り、活発な活動をうれしく感じた。

## 11. 壁新聞の制作

各学年の割り当てに従い、総合的な学習の時間を利用し、壁新聞の制作をした。

- 1年 地域学習（淡路を調べよう）
- 2年 校外学習
- 3年 修学旅行

記者派遣授業や新聞社の見学で学習したことが生かせる取り組みである。紙面の割り付け、見出しの付け方、分かりやすい文章の書き方、取材方法、編集の仕方、写真の利用など、学習の成果が壁新聞として表れた。作成した壁新聞は廊下に掲示し、オープンスクールの時に保護者や地域の方々に見ていただいた。

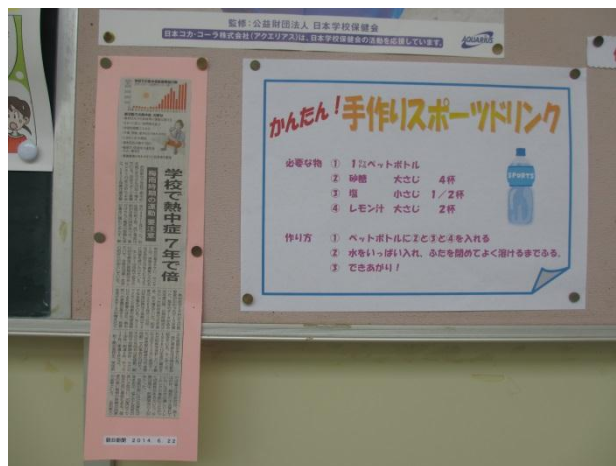


## 12. 学校での取り組み

授業や学校行事だけでなく、多くの機会を捉えて新聞を活用している。例えば、保

健室前の廊下では、熱中症やインフルエンザの新聞記事を貼り出し、健康に気をつけるように指導している。新聞を目にする機会を増やし、新聞を身近に感じてほしいと考えている。

学校の取り組みは、各種会合や学校だよりを通して、保護者や地域の方々に啓発を行い、NIEを多くの方々の力を借りて進めていった。



## 13. おわりに

NIE実践指定校として、1年間取り組んできた。それまでは、新聞を読む時に、学校での活用について特に意識していたわけではない。気にかかる記事があれば、印刷し授業で使う程度であった。しかし本年度、NIEを積極的に実践してきて、新聞の可能性、有効性を強く感じた。新聞をうまく活用することにより、思考力・判断力・表現力を育てられると感じた。今後、より一層新聞を活用し、家庭との連携を進めながら学校教育の充実に取り組んでいきたいと考えている。

本校のNIEを進める当たり、兵庫県NIE推進協議会の山崎整・山城芳郎様、各新聞社の淡路総支局担当記者様、朝日新聞大阪本社、淡路市役所、淡路市教育委員会、洲本市教育委員会には多くのご協力を得ました。ありがとうございました。